

ダクタイトル鋳鉄管管路に施工する不断水割T字管における防食コア、フランジ接合部補強金具の施工および使分け等について（通知）

このことについて、下記のように「不断水割T字管」の取扱いについて通知します。

記

1 防食コアの施工について（資料1）

ダクタイトル鋳鉄管管路に施工する不断水割T字管の内、本管口径φ75～φ600の分岐側口径φ75～φ150については、穿孔口にサビの抑制、通水口径の確保を図るために、防食コアを施工することとします。

また、コア挿入を伴う穿孔作業は、原則不断水割T字管のメーカーにて行うこととしますが、自社施工の申し出があった場合は施工実績を確認し、自社施工を認めます。

なお、不断水割T字管の設置工は、見積りを採用し、自社施工しても原則変更の対象とはしません。

2 フランジ接合部補強金具（7.5K）ブロック形の施工について（資料2）

原則不断水割T字管は、フランジレスを採用し、フランジレスにできない場合は、フランジ面の付いた不断水割T字管を採用し、フランジ接合部には、フランジ接合部補強金具（7.5K）ブロック形を施工してください。（地下式消火栓、空気弁の施工は除く。）

ただし、分岐側で水道配水用ポリエチレン管等に管種変更する場合は、設計指針とおりに直近の仕切弁まではダクタイトル鋳鉄管で施工することを優先します。

3 不断水割T字管の使分けについて（資料3）

（1）既設本管がNS、GX形等の耐震管の場合

1）、2）、3）の順番で選定します。

1）耐震性能を有している不断水割T字管

- ・制水弁付不断水割T字管（耐震型）
- ・制水弁付不断水割T字管（耐震可とう型）

なお、該当口径に「耐震型」と「耐震可とう型」のどちらにもある場合は、経済比較をして安価な方を採用します。

2）免震性能を有している不断水割T字管

上記1）にない口径に採用します。

- ・制水弁付不断水割T字管（免震可とう型）

3）上記以外の不断水割T字管

上記1）、2）にない口径に採用します。

- ・制水弁付不断水割T字管（V型）
- ・F型不断水割T字管

なお、該当口径に「V型」と「F型」のどちらにもある場合は、経済比較をして安価な方を採用します。

なお、承認している不断水割T字管の使分けは表2のとおりです。

◇耐震型、免震可とう型、耐震可とう型の用途および使用についての要点

選定順	形式	用途	使用についての要点
1	耐震型	耐震用	割T字管の分岐側においては、3DkNの離脱防止力に対応。
2	耐震可とう型	耐震および免震用	割T字管本体および分岐側で3DkNの離脱防止力および地盤変動に対応。
3	免震可とう型	免震用	ボール型の可とう構造を備えており、分岐部に生じる地盤変動に対応。

※選定の判断基準について

不断水割T字管は次の順番で選定しています。

- 1) 耐震性能を有している不断水割T字管
- 2) 免震性能を有している不断水割T字管
- 3) 上記以外の不断水割T字管

なお、「1) 耐震性能を有している不断水割T字管」には、「耐震型」と「耐震可とう型」など複数の種類がある場合は、「耐震型」と「耐震可とう型」を経済比較して安価な方を採用しています。

(2) 既設本管がK形等の一般管の場合

制水弁付不断水割T字管（V型）またはF型不断水割T字管のどちらかを選定します。

(3) 既設管路に地下式消火栓または空気弁を設置する場合

1)、2)の順番に選定します。

- 1) 制水弁付不断水割T字管（V型）
- 2) F型不断水割T字管

4 承認している不断水割T字管の種類と注意点および設計寸法について（資料4）

承認している不断水割T字管の種類と注意点および設計寸法を資料4にまとめましたので、設計、施工の参考にしてください。

なお、付属仕切弁の取扱い、弁操作など各不断水割T字管で違う場合がありますので、注意してください。

設計寸法については原則大成機工(株)の有効長としますが、大成機工(株)に製品がない場合はコスモ工機(株)の有効長とします。

5 工事ごとで承認する場合に確認する事項について（資料5）

承認している耐震型（K形挿）、耐震型（NS形受口）、耐震可とう型（NS形）、免震可とう型（フランジ形）、V型、F型以外の不断水割T字管を工事ごとで承認する場合は、全周パッキンであること、組み立てボルト、押ボルトの仕様、防食コア、ポリエチレンスリーブの有無、耐震型、耐震可とう型の必要性能を確認してください。

6 適用時期

防食コアの施工については、平成30年1月1日以降で対応可能な設計からとします。

従って、同時期の発注工事でも、防食コアの施工を“する工事”と“しない工事”が混在する可能性があります。

防食コア施工の場合は、設計書の資材費、布設接合費に「コア付」、「コア施工」と明示されていますので、こちらで施工の有無を確認してください。なお、設計図には、表示はありませんので注意してください。

◇防食コアの施工について

資料 1

ダクタイル鋳鉄管管路に施工する不断水割T字管には、原則防食コア（図1）を施工する。
 なお、防食コアは全口径が製品化されていないため、施工できる口径は表1のとおりである。

図1 承認している防食コア



コスモ工機(株)	大成機工(株)
銅製密着コア(CORE-MG)：φ75～φ150 ※鋼管兼用	防食コア(SUS316)：φ75～φ150 ※鋼管兼用
	

表1 防食コアを施工する口径

枝管側 本管側	75	100	150	200	250	300	350	400	450
75	要								
100	要	要							
150	要	要	要						
200	要	要	要	不要					
250	要	要	要	不要	不要				
300	要	要	要	不要	不要	不要			
350	要	要	要	不要	不要	不要	不要		
400	要	要	要	不要	不要	不要	不要	不要	
450	要	要	要	不要	不要	不要	不要	不要	不要
500	要	要	要	不要	不要	不要	不要	不要	不要
600	要	要	要	不要	不要	不要	不要	不要	不要
700	不要	不要	不要	不要	不要	不要	不要	不要	不要
800	不要	不要	不要	不要	不要	不要	不要	不要	不要
900	不要	不要	不要	不要	不要	不要	不要	不要	不要

※凡例 要：防食コアを施工する口径。 不要：防食コアが製品化されていないため不要とする口径。

◇ フランジ接合部補強金具（7.5K）ブロック形の施工について

資料 2

原則不断水割T字管は、フランジレスを採用し、フランジレスにできない場合は、フランジ面の付いた不断水割T字管を採用し、フランジ接合部には、フランジ接合部補強金具（7.5K）ブロック形（図2、3）を施工する。（地下式消火栓、空気弁の施工は除く。）

ただし、分岐側で水道配水用ポリエチレン管等に管種変更する場合は、設計指針とおりに直近の仕切弁まではダクタイル鋳鉄管で施工することを優先する。

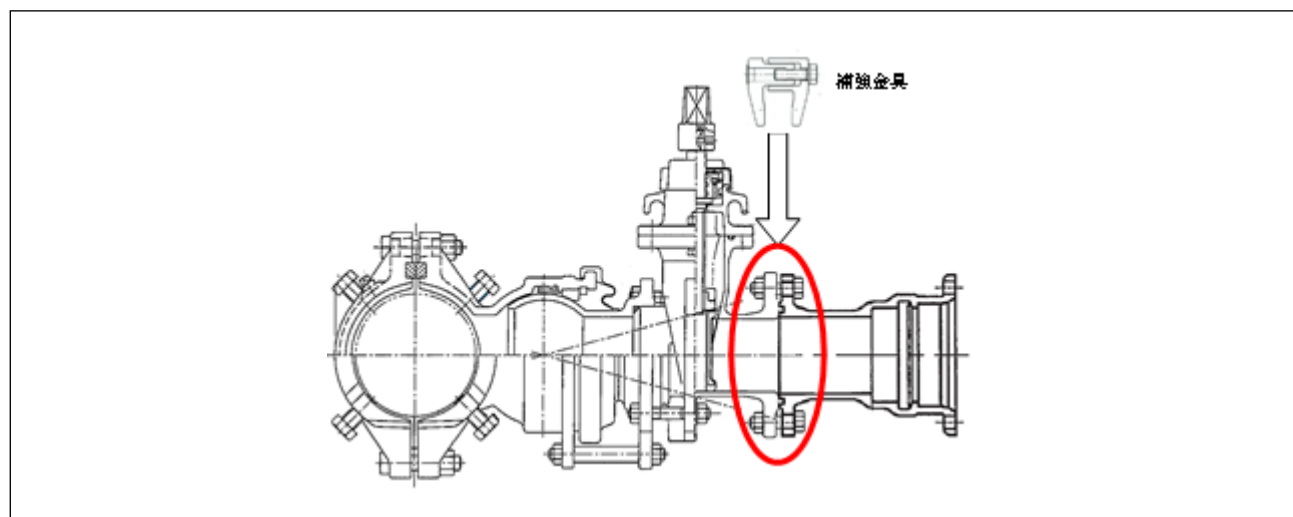
図2 フランジ接合部補強金具（7.5K）ブロック形

コスモ工機 フランジ固定金具	大成機工 フランジサポート
	

※1 六角ボルト・ナットは、フランジ接合部補強金具に付属される SUS304 を使用すること。

※2 承認している口径はφ75～φ400です。φ450 以上は工事ごとで承認すること。

図3 不断水割T字管にフランジ接合部補強金具（7.5K）ブロック形を施工する箇所



◇ 不断水割 T 字管の使分けについて

(1) 既設本管が NS、GX 形等の耐震管の場合

1)、2)、3) の順番で選定する。

1) 耐震性能を有している不断水割 T 字管

- ・制水弁付不断水割 T 字管 (耐震型)
- ・制水弁付不断水割 T 字管 (耐震可とう型)

なお、該当口径に「耐震型」と「耐震可とう型」のどちらにもある場合は、経済比較をして安価な方を採用する。

2) 免震性能を有している不断水割 T 字管

上記 1) にない口径に採用する。

- ・制水弁付不断水割 T 字管 (免震可とう型)

3) 上記以外の不断水割 T 字管

上記 1)、2) にない口径に採用する。

- ・制水弁付不断水割 T 字管 (V 型)
- ・F 型不断水割 T 字管

なお、該当口径に「V 型」と「F 型」のどちらにもある場合は、経済比較をして安価な方を採用する。

表 2 承認している不断水割 T 字管の使分け

枝管側 本管側	75	100	150	200	250	300	350	400	450
75	①								
100	①	①							
150	①	①	①						
200	①	①	①	②					
250	①	①	①	②	②				
300	①	①	①	⑤	②	②			
350	①	①	①	⑤	⑦	⑦	⑦		
400	⑤	⑤	⑤	⑤	⑦	⑦	⑦	③	
450	⑤	⑤	⑤	⑤	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦
500	⑤	⑤	⑤	⑤	工事毎で承認				
600	⑤	⑤	⑤	⑤					
700	⑤	⑤	⑤	⑤					
800	⑤	⑤	⑤	⑤					
900	⑤	⑤	⑤	⑤					

- ① 制水弁付不断水割 T 字管 [耐震型(K 形挿)]
- ② 制水弁付不断水割 T 字管 [耐震型(K 形挿)]
- ③ 制水弁付不断水割 T 字管 [耐震型(NS 形受口)]
- ④ 制水弁付不断水割 T 字管 [耐震可とう型(NS 形挿)]
- ⑤ 制水弁付不断水割 T 字管 [免震可とう型(フランジ形)]
- ⑥ 制水弁付不断水割 T 字管 (V 型)
- ⑦ F 型不断水割 T 字管

※詳細は資料 2 を参照。

(2) 既設本管が K 形等の一般管の場合

制水弁付不断水割 T 字管 (V 型) または F 型不断水割 T 字管のどちらかを選定する。



(3) 既設管路に地下式消火栓または空気弁を設置する場合

1)、2) の順番に選定する。

- 1) 制水弁付不断水割 T 字管 (V 型)
- 2) F 型不断水割 T 字管

◇承認している不断水割T字管の種類と注意点および設計寸法について


① 制水弁付不断水割T字管〔耐震型(K形挿)〕φ75×φ75～φ350×φ150

コスモ工機(株)		大成機工(株)
		
コスモ耐震型ロックバルブ (RLKVKS) (ソフトシール弁)		耐震形ヤノT字管TⅡ型 (TⅡ-12) (弁は簡易バルブ)
形式	耐震型	
用途	耐震用	
使用についての要点	割T字管の分岐側においては、3DkNの離脱防止力に対応。	
<p>・ 付属の仕切弁を維持管理用の仕切弁（ソフトシール弁）として使用する場合は、ソフトシール弁が付属するコスモ工機(株)製を使用すること。</p> <p>※大成機工(株)は付属する仕切弁が、穿孔専用であり、ソフトシール弁ではないため、維持管理用の仕切弁として は使用を禁止する。</p> <p>・ GX形ダクタイル鋳鉄管と接合する場合、承認はK形挿し口であるため、G-Link または P-Link を使用すること。</p>		

◇設計寸法

枝管側 本管側	75	100	150	200	250	300	400
75	①0.64 ②0.65						
100	①0.67 ②0.66	①0.69 ②0.67					
150	①0.70 ②0.69	①0.73 ②0.69	①0.77 ②0.70				
200	①0.71 ②0.72	①0.74 ②0.72	①0.82 ②0.73				
250	①0.73 ②0.74	①0.76 ②0.74	①0.82 ②0.75				
300	①0.76 ②0.77	①0.79 ②0.77	①0.85 ②0.78				
350	①0.79 ② -	①0.82 ② -	①0.87 ② -				

①コスモ工機(株)
②大成機工(株)

 採用寸法

※付属の仕切弁を維持管理用の仕切弁（ソフトシール弁）として使用する場合は、コスモ工機(株)で設計する。

※特殊な場合を除き、設計寸法は参考値であり、材料を指定するものではありません。

設計書、設計図、完了図の名称

設計書の名称	V型不断水割T字管 DCIP用 コア付 φ○△×φ□○ 耐震K挿
設計図の旗揚げ名称	V型不断水割T字管 DCIP用(耐震K挿) φ○△×φ□○ l=△□
完了図の旗揚げ名称	V型不断水割T字管 DCIP用(耐震K挿) φ○△×φ□○ l=△□

② 制水弁付不断水割T字管 [耐震型(K形挿)] φ200×φ200～φ300×φ300

③ 制水弁付不断水割T字管 [耐震型(NS形受口)] φ400×φ400

コスモ工機(株)	
②耐震型制水弁付不断水割T字管 (K形挿) 	③耐震型制水弁付不断水割T字管 (NS形受口) 
コスモロータリーバルブ移動防止付 (RVKSS) 【耐震型】 φ200×φ200～φ300×φ300 (特殊開閉弁)	コスモロータリーバルブ移動防止付 (RVNSUS) 【耐震型】 φ400×φ400 (特殊開閉弁)
形式	耐震型
用途	耐震用
使用についての要点	割T字管の分岐側においては、3DkNの離脱防止力に対応。
<p>・ 付属の仕切弁は、穿孔専用であるため、維持管理用の仕切弁（ソフトシール弁）としての使用は禁止する。</p> <p>・ 付属の仕切弁の操作は、原則不断水割T字管のメーカーにて操作してもらうこと。 ただし、やむを得ず請負者、企業団監督員が操作する場合は、メーカーから注意事項を必ず確認して行うこと。</p> <p>・ 穿孔後に弁を開けた後は、弁の開閉作業は行わないこと。（※閉めた後、片圧状態で開けようとした場合、弁が動かないか、完全に開かないことがあるため。）</p> <p>・ 穿孔作業は、弁構造が特殊なため、不断水割T字管のメーカーにて行うこと。</p> <p>・ コア挿入は、防食コアが製品化されていないため、施工できない。</p> <p>・ GX形ダクタイル鋳鉄管と接合する場合、φ200、φ250、φ300の承認はK形挿し口であるため、G-LinkまたはP-Linkを使用すること。 φ400の承認はNS形受口であるが、GX形挿し口で接合する。（※φ400は、NS形とGX形の挿し口突部の形状が同じため）</p>	

設計寸法

枝管側 本管側	75	100	150	200	250	300	400
200				①0.73 ② -			
250	①コスモ工機(株)			①0.82 ② -	①0.81 ② -		
300	②大成機工(株)			①0.83 ② -		①0.82 ② -	
350	採用寸法						
400				①0.36 ② -			



※設計寸法は、コスモ工機(株)とする。

※特殊な場合を除き、設計寸法は参考値であり、材料を指定するものではありません。

設計書、設計図、完了図の名称

設計書の名称	K挿しの場合	V型不断水割T字管 DCIP用 φ○△×φ□○ 耐震K挿
	NS受口の場合	V型不断水割T字管 DCIP用 φ○△×φ□○ 耐震NS受
設計図の旗揚げ名称	K挿しの場合	V型不断水割T字管 DCIP用(耐震K挿) φ○△×φ□○ I=△□
	NS受口の場合	V型不断水割T字管 DCIP用(耐震NS受) φ○△×φ□○ I=△□
完了図の旗揚げ名称	K挿しの場合	V型不断水割T字管 DCIP用(耐震K挿) φ○△×φ□○ I=△□
	NS受口の場合	V型不断水割T字管 DCIP用(耐震NS受) φ○△×φ□○ I=△□

④ 制水弁付不断水割T字管 [耐震可とう型(NS形挿)] φ75×φ75～φ350×φ150

コスモ工機(株)		大成機工(株)
		
コスモバルブ耐震型 (RSTCNS) (ソフトシール弁)		耐震形割T字管 ヤノ・フレックスT字管TⅡ型(TⅡ-07) (ソフトシール弁)
形式	耐震可とう型	
用途	耐震および免震用	
使用についての要点	割T字管本体および分岐側で 3DkN の離脱防止力および地盤変動に対応。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 付属の仕切弁は維持管理用の仕切弁 (ソフトシール弁) として使用可能です。 ・ 承認は、NS 形挿し口のみです。GX 形ダクタイル鋳鉄管と接合する場合は、K 形挿し口を工事毎で承認し、接合は G-Link または P-Link を使用すること。 		

設計寸法

枝管側 本管側	75	100	150	200	250	300	400
100	①0.92 ②0.82	① - ②0.89					
150	①0.95 ②0.85	①1.02 ②0.89					
200	①0.96 ②0.87	①1.02 ②0.92	①1.12 ②1.00				
250	①0.98 ②0.90	①1.05 ②0.94	①1.12 ②1.02				
300	①1.00 ②0.92	①1.07 ②0.97	①1.15 ②1.05				
350	①1.03 ②0.95	①1.10 ②0.99	①1.18 ②1.07				

①コスモ工機(株)
②大成機工(株)



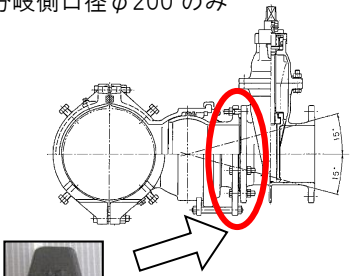

採用寸法

※特殊な場合を除き、設計寸法は参考値であり、材料を指定するものではありません。

設計書、設計図、完了図の名称

設計書の名称	V型不断水割T字管 DCIP用 コア付 φ○△×φ□○ 耐震可撓NS挿
設計図の旗揚げ名称	V型不断水割T字管 DCIP用(耐震可撓NS挿) φ○△×φ□○ =△□
完了図の旗揚げ名称	V型不断水割T字管 DCIP用(耐震可撓NS挿) φ○△×φ□○ =△□

⑤ 制水弁付不断水割T字管 [免震可とう型(フランジ形)]

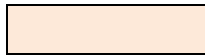
コスモ工機(株)		大成機工(株)	
			分岐側口径φ200のみ  ※フランジ継手部補強金具(フランジサポートⅡ型)が付属される。 
コスモバルブ ST 型 ST ソフト (ESTCF/10M) 【免震型】 (ソフトシール弁)		ヤノ・フレックス T 字管 V 型 (YF-65VS) 【免震型】 (ソフトシール弁)	
形式	免震可とう型		
用途	免震用		
使用についての要点	ボール型の可とう構造を備えており、分岐部に生じる地盤変動に対応。		
<ul style="list-style-type: none"> ・免震型は、耐震型不断水割T字管に対応口径が無い場合に使用する。 ・付属の仕切弁は維持管理用の仕切弁(ソフトシール弁)として使用可能です。 ・フランジ接合部はフランジ接合部補強金具(7.5K)ブロック形で耐震補強すること。 			

設計寸法

枝管側 本管側	75	100	150	200	250	300	400
300				①0.91 ②0.73			
350				①0.93 ②0.75			
400	①0.79 ②0.61	①0.84 ②0.64	①0.90 ②0.71	①0.96 ②0.78			
450	①0.81 ②0.64	①0.87 ②0.66	①0.93 ②0.74	①0.98 ②0.81			
500	①0.84 ②0.67	①0.89 ②0.69	①0.96 ②0.76	①1.01 ②0.83			
600	①0.89 ②0.72	①0.95 ②0.74	①1.01 ②0.81	①1.06 ②0.88			
700	① - ②0.77	① - ②0.79	① - ②0.87	① - ②0.93			
800	① - ②0.82	① - ②0.84	① - ②0.92	① - ②0.99			
900	① - ②0.87	① - ②0.90	① - ②1.01	① - ②1.04			

①コスモ工機(株)

②大成機工(株)



 採用寸法

※特殊な場合を除き、設計寸法は参考値であり、材料を指定するものではありません。

設計書、設計図、完了図の名称

設計書の名称	V 型不断水割 T 字管 DCIP 用 コア付 φ○△×φ□○ 免震可撓
設計図の旗揚げ名称	V 型不断水割 T 字管 DCIP 用(免震可撓) φ○△×φ□○ l=△□
完了図の旗揚げ名称	V 型不断水割 T 字管 DCIP 用(免震可撓) φ○△×φ□○ l=△□

⑥ 制水弁付不断水割T字管（V型）

コスモ工機株	大成機工株
	
コスモバルブ ST 型 ST ソフト（STCPFP、STCF/10M） （ソフトシール弁）	ヤノ T 字管 V 型（TN-65VS） （ソフトシール弁）
<p>・ V 型は、耐震型、免震型不断水割 T 字管に対応口径が無い場合と既設管路に地下式消火栓、空気弁に設置する場合に使用する。</p> <p>・ 付属の仕切弁は維持管理用の仕切弁（ソフトシール弁）として使用可能です。</p> <p>・ フランジ接合部はフランジ接合部補強金具（7.5K）ブロック形で耐震補強すること。</p> <p>ただし、地下式消火栓、空気弁を設置する場合は除く。</p>	

設計寸法

枝管側 本管側	75	100	150	200	250	300	400
100	①0.31 ②0.31	①0.32 ② -					
150	①0.34 ②0.30	①0.35 ②0.37					
200	①0.36 ②0.33	①0.38 ②0.39	①0.45 ②0.44				
250	①0.39 ②0.37	①0.42 ②0.38	①0.47 ②0.45				
300	①0.42 ②0.39	①0.44 ②0.40	①0.50 ②0.45				
350	① - ②0.42	① - ②0.43	① - ②0.48				
400	① - ②0.45	① - ②0.46	① - ②0.50				
450	① - ②0.47	① - ②0.48	① - ②0.53				

①コスモ工機株

②大成機工株




採用寸法

※特殊な場合を除き、設計寸法は参考値であり、材料を指定するものではありません。

設計書、設計図、完了図の名称

設計書の名称	V 型不断水割 T 字管 DCIP 用 コア付 $\phi\bigcirc\Delta\times\phi\bigcirc\bigcirc$
設計図の旗揚げ名称	V 型不断水割 T 字管 DCIP 用 $\phi\bigcirc\Delta\times\phi\bigcirc\bigcirc\text{I}=\Delta\bigcirc$
完了図の旗揚げ名称	V 型不断水割 T 字管 DCIP 用 $\phi\bigcirc\Delta\times\phi\bigcirc\bigcirc\text{I}=\Delta\bigcirc$

⑦ F型不断水割T字管

コスモ工機(株)		大成機工(株)
		
割T字管 B (BCP-P) (離脱防止押輪無し)	割T字管 M型(MC/10) (離脱防止押輪有り)	ヤノT字管 F型 (TN-65F)
<p>・ F型は、耐震型、免震型不断水割T字管に対応口径が無い場合と既設管路に地下式消火栓、空気弁に設置する場合に使用する。</p> <p>・ 副弁（補修弁）を接続する場合は穿孔可能か確認すること。</p> <p>・ フランジ接合部はフランジ接合部補強金具(7.5K)ブロック形で耐震補強すること。 ただし、地下式消火栓、空気弁を設置する場合は除く。</p>		

設計寸法

枝管側 本管側	75	100	150	200	250	300	350	400	450
75	①0.12 ②0.20								
100	①0.14 ②0.18	①0.13 ②0.19							
150	①0.17 ②0.21	①0.16 ②0.21	①0.20 ②0.21						
200	①0.20 ②0.24	①0.20 ②0.24	①0.22 ②0.24	①0.21 ②0.26					
250	①0.23 ②0.26	①0.23 ②0.26	①0.25 ②0.26	①0.27 ②0.29	①0.30 ②0.29				
300	①0.26 ②0.29	①0.26 ②0.29	①0.27 ②0.29	① - ②0.29	①0.32 ②0.32	①0.32 ②0.33			
350	① - ②0.31	① - ②0.31	① - ②0.31	① - ②0.32	① - ②0.32	①0.35 ②0.33	①0.35 ②0.34		
400	① - ②0.34	① - ②0.34	① - ②0.34	① - ②0.35	① - ②0.35	① - ②0.35	①0.38 ②0.37	①0.38 ②0.37	
450	① - ②0.37	① - ②0.37	① - ②0.37	① - ②0.37	① - ②0.38	① - ②0.38	① - ②0.40	①0.40 ②0.40	①0.40 ②0.41

①コスモ工機(株)
②大成機工(株)

採用寸法

※特殊な場合を除き、設計寸法は参考値であり、材料を指定するものではありません。




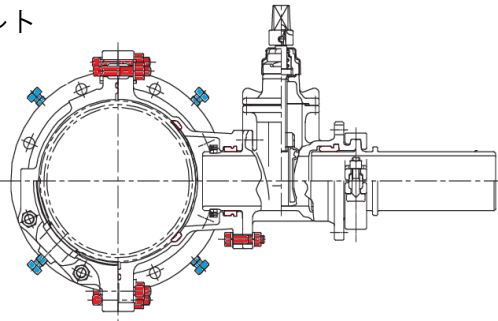
設計書、設計図、完了図の名称

設計書の名称	F型不断水割T字管 DCIP用 コア付 $\phi\bigcirc\Delta\times\phi\bigcirc\bigcirc$
設計図の旗揚げ名称	F型不断水割T字管 DCIP用 $\phi\bigcirc\Delta\times\phi\bigcirc\bigcirc\text{I}=\Delta\bigcirc$
完了図の旗揚げ名称	F型不断水割T字管 DCIP用 $\phi\bigcirc\Delta\times\phi\bigcirc\bigcirc\text{I}=\Delta\bigcirc$

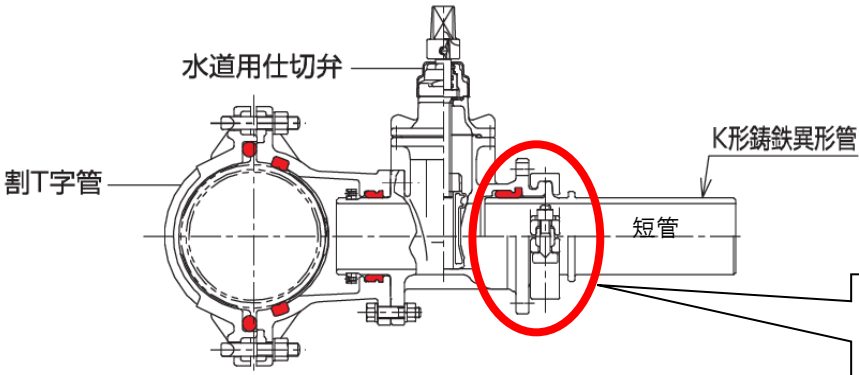
◇工事ごとで承認する場合に確認する事項

承認している耐震型（K形挿）、耐震型（NS形受口）、耐震可とう型（NS形）、免震可とう型（フランジ形）、V型、F型以外の不断水割T字管を工事ごとで承認する場合は、以下のことを確認する。

（1）すべての不断水割T字管で確認すべき事項

確認する書類	確認事項
図面	<p>①全周パッキンであること。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>②組み立てボルト・ナット（赤色）は、耐食性の観点からフッ素合金ボルト・ナットまたは SUS であること。（※組み立てボルト、ナット：腐食によって漏水等の不具合があっては困るボルト、ナット類とする。）</p> <p>③特殊押輪の押ボルト（青色）は、耐食性の観点から合金ダクティル鋳鉄製で酸化被膜処理（Sの表示）が行われていること。※JWWA G 113、114にて酸化被膜処理の表示規定あり。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: flex-start;"> <div style="width: 40%;"> <p>■ 組み立てボルト・ナット</p> <p>■ 押ボルト</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;"> <p>（例）酸化被膜処理の表示</p>  </div> </div>  <p>④防食コアが付属されていること。</p> <p>⑤ポリエチレンスリーブが付属されていること。</p>

（2）耐震型は、上記（1）の内容に加えて、下記の内容も確認すること。

確認する書類	確認事項
試験成績書	 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; width: fit-content;"> <p>仕切弁と短管継手の接合部分が 3DkN などの離脱防止力を有していること</p> </div> <p>・赤枠部分の離脱防止性試験の結果報告書を提出させる。 DCIP の場合は JWWA G 120、121、JCPA G 1049 等 HPP の場合は PTC G32(配水用ポリエチレンパイプシステム協会規格)等に準じた試験方法で性能試験が行われていることを確認する。</p>